

# 20th

## 桜丘区民センター



## 20th 桜丘区民センター

発行日 平成16年11月1日  
編集 20周年記念誌編集実行委員会  
発行 桜丘区民センター運営協議会  
世田谷区桜丘5-14-1 電話 03-3439-0541

裏表紙写真 区民センターのシンボル ブロンズ像  
北村西望氏 不朽の名作「喜ぶ少女」  
偉大な巨匠が純真な笑顔に託す愛と平和への祈り  
(区民センター正面ロビー展示)

## 二十周年を迎えて



桜丘区民センター運営協議会会長  
川端 富造

この桜丘区民センターも20周年を迎えることができました。これも地域の皆様の努力によって気持ちが一つになったからこそで、大変めでたいことです。区民センターを支える地域、そして運営協議会がきちんと動いているおかげだということを日々感じております。

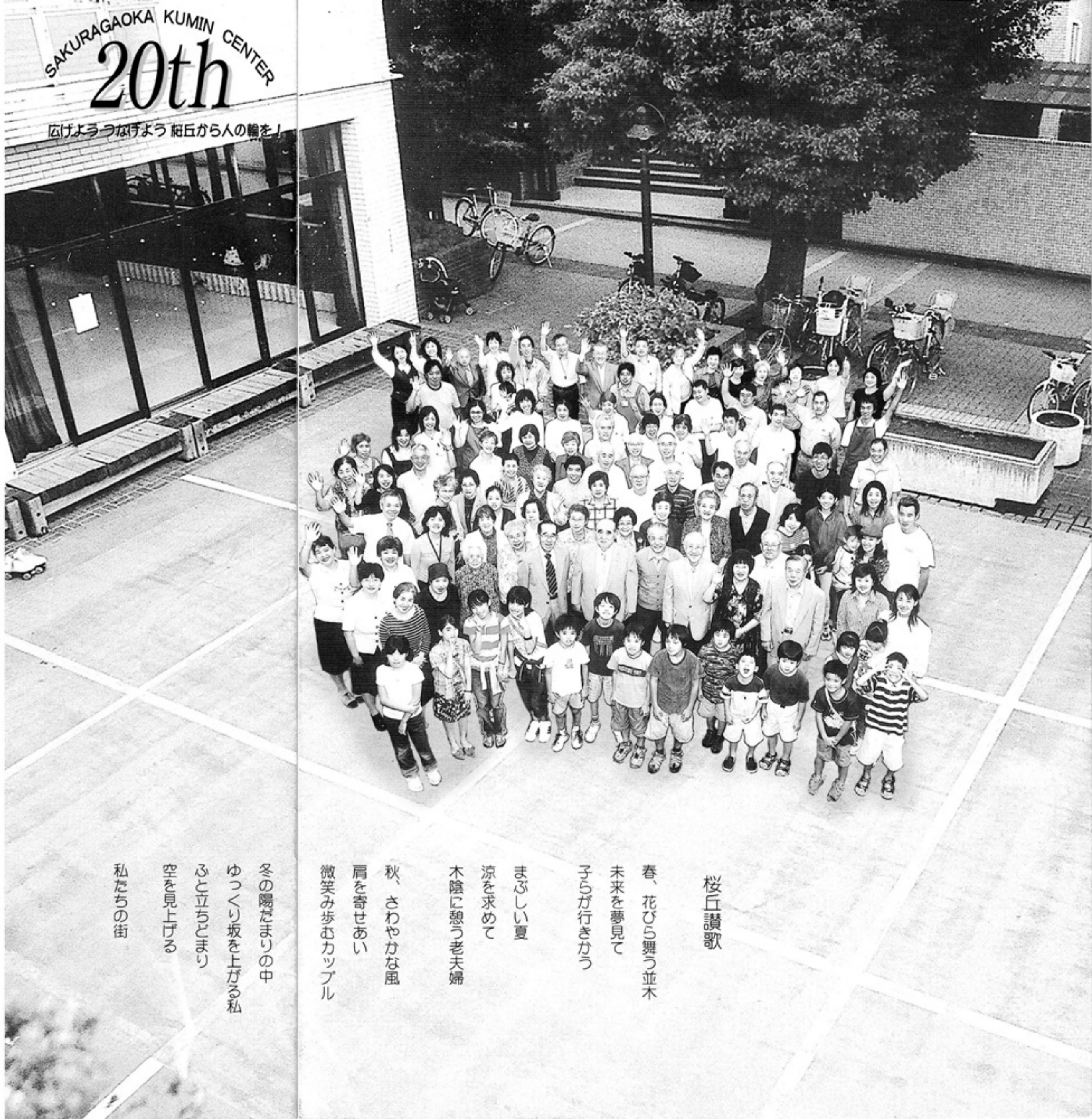
区民センターは出会いや交流をはかるコミュニティの場、また学習や運動をして心身を向上させる場です。区民センターが地域にあり、活動をしていると、いきいきとした感じが街にもあふれてきます。今後も活発な活動をし、魅力ある地域づくりの手助けができれば幸いです。

常日頃ご利用いただいている皆様、みなさんがセンターの色々な面を愛して使ってくださっていることに感謝いたします。

まだ利用していらっしゃらない皆様、区民センターは公費で運営していますので、皆さんにもどうぞ気軽に来ていただきたいと思います。そのためにさまざまな工夫をし企画をたてています。「桜丘区民センターに行ってみよう、健康になろう、勉強してみよう」とどんどん積極的に関わってください。お待ちしております。

### 目次

- ・ 20周年に寄せて..... 4
- ・ 20年のあゆみ..... 6
- ・ 区民センターのいま..... 10
- ・ 座談会  
「明日へのコミュニティづくりに向けて」 ..... 12
- ・ あとがきにかえて..... 18



### 桜丘讃歌

春、花びら舞う並木  
未来を夢見て  
子らが行きかう

まぶしい夏  
涼を求めて  
木陰に憩う老夫婦

秋、さわやかな風  
肩を寄せあい  
微笑み歩むカップル

冬の陽だまりの中  
ゆっくり坂を上がる私  
ふと立ちどまり  
空を見上げる  
私たちの街



世田谷区長  
熊本 哲之

桜丘区民センターが開館二十周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

昭和五十九年の開館以来、貴区民センター運営協議会の皆様には、その目的とされた「人間性及び文化性豊かなコミュニティづくり」を目指してご尽力いただきました。皆様方の長年にわたるご努力に深く敬意を表すと同時に、あらためて世田谷区政へのご理解とご協力に対し、厚くお礼を申し上げます。

さて、昭和六十一年に都市計画学会賞を受賞した区民センターを中心とした街並みも、ケヤキが大きくなり、二十年の歳月を感じさせます。この間、運営協議会の皆様には「区民センターまつり」「コミュニティ講座」など、様々な行事を開催されてこられました。その催し物を通じて利用者同士の交流を図り、「豊かなコミュニティ」「心通う安らぎあるまち」づくりに貢献され、数多くの自主サークルが誕生してまいりました。桜丘区民セン

榎世田谷サービス公社々長

山中 千万城

桜丘区民センターが開設二十周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。関係者の皆様のたゆまぬご努力で、地域社会に欠かせない出会いや安らぎの場として、現在に至られましたことに、深く敬意を表する次第でございます。

私も、貴区民センターの清掃・冷暖房など施設の維持管理や窓口ほか事務のお手伝いをさせていただいております。日頃から、地域の皆様や区所管には温かいお気遣いを賜り感謝しております。今後も、地域の皆様の施設利用や各種事業の運営に際し、ご満足していたために一層質の高いサービスの提供を目指す所存です。

二十周年を機に貴センターがコミュニティの核として益々発展されることを祈念してお祝いの言葉とさせていただきます。



ターは、身近に利用できる集会の場として、

多くの地域団体や地域住民に愛され、地域交流の核として、あるいはまちづくりの活動の中心として大きな役割を果たしてきました。少子高齢化がすすむ現在、地域の諸課題を解決していくには、様々な地域で、さらなる区民の方々の交流促進が望まれます。

区としても、「安全で安心なまち」「心通う安らぎのあるまち」などを基本方針として、政策課題を実現するため努力しております。貴センターにおかれましては、開館二十周年の記念すべき年を契機に、地域の特色を生かし、地域と深く密着しながら「人間性及び文化性豊かなコミュニティづくり」に向けて、さらに発展されることを心から期待をいたしまして、お祝いの言葉といたします。

経堂出張所長

飯島 進

桜丘区民センター二十周年おめでとうございます。

この間、運営協議会の皆様、また利用者の皆様がセンターを拠点とした様々な活動を通して、桜丘地域のコミュニティづくりの核としての役割を果たされてきました。

世田谷区は安心安全のまちづくりを目指しておりますが、皆様のセンターにおける活動はまさにその一翼を担うもので、センターに人々が集い、そして地域に広く交流の輪が広がっていただいていると思います。

これからも益々、センターが皆様の活動・交流の場として親しまれていくものと願っております。

高齢者クラブ桜丘桜寿会々長

中杉 栄吉

桜丘区民センターが二十周年を迎えられたこと誠におめでとうございます。創設以来の各関係者のご努力に感謝申し上げます。

私も高齢者クラブ会員二百名も、地域社会を豊かにする手助けにと、様々な活動に積極的に参加し、若い世代との交流にも努めています。仲間の会員は、センターを軸に多様な活動が出来ることを大変喜んでおります。

センターまつりも年々多彩になり、各利用団体の日頃の成果の披露には目を見張るものがあります。わが会は書道、俳句、生け花、手芸、カラオケ、民謡、踊り、詩吟などに参加しております。

今後も区民センター並びに関係する皆さんの一層のご発展を祈念申し上げます。

桜丘児童館長

仲田 利光

桜丘区民センター開設二十周年おめでとうございます。

児童館も区内十八番目の児童館として昭和五十九年にオープンし、二十歳になります。これも一重に運営協議会や地域の皆さまのご支援、ご理解の賜物と感謝申し上げます。

近年、一層進む少子化や地域社会での変化、家庭生活の変化で子どもをめぐる環境は大きく変貌して来ています。この時代にあつて、子どもが健やかに育成できる事業、子育てを支援できる事業、児童館や街の中から子どもの元気な声や姿が見える社会の実現のために、

これからも努力してまいります。地域の大人が情報交換や交流をし、行政が連携し、子どものために活動できる拠点として、気軽にご利用いただける施設づくりを目標にしていきます。

今後とも、より一層のご協力をお願いいたします。

桜丘図書館長

加藤 秀子

桜丘区民センター二十周年おめでとうございます。地域ならびに運営協議会の皆様のご努力に深く感謝申し上げます。これからも当コミュニティの発展と皆様の活動・交流の輪が広がることを願っております。

わが桜丘図書館も開館から二十年となりますが、当地域の発展の一端を担うべく、皆さんに喜ばれる図書館を目指したいと思っております。この間、祝日開館、土日開館時間の延長をいたしました。また、平成十五年度よりインターネットにホームページを開設し、資料公開および自宅パソコンからも蔵書検索・予約ができるようになりました。さらに便利で満足いただける図書館になるよう励みます。皆様のご来館をお待ちしております。

# 桜丘区民センター20年のあゆみ

- 平成10・2 講演会 世田谷警察署担当者  
「子どもを犯罪から守る」
- 10・2 もちつき大会
- 10・3 音楽のつどいコンサート/卓球を楽しむつどい〔共催〕
- 桜丘区民センターニュース発行3回
- 平成10・4 若林公男事務局長赴任（～12・3）
- 10・4 地域・利用者懇談会
- 10・6 講演会 加藤美枝氏「在宅介護の現状と将来」/歌の祭典
- 10・7 スポーツ交流会
- 10・9 講演会 松崎早苗氏  
「私たちの暮しと環境ホルモン」
- 10・9 会則検討委員会発足/「こども110番」ステッカー設置
- 10・10 歩こう会/健康体操教室（毎水曜）
- 10・11 区民センターまつり
- 10・11 講演会 荻野博司氏  
「これからどうなる日本経済」
- 10・12 まちづくり音楽会〔共催〕
- 11・1 運営協議会会則の「運営要綱」定める
- 11・2 卓球のつどい〔共催〕
- 11・3 音楽のつどいコンサート/歌の祭典
- センターニュース発行2回
- 平成11・4 副会長 吉岡道子氏
- 11・5 地域・利用者懇談会
- 11・7 スポーツ交流会/歌の祭典2回/ゴールデンホルン演奏会〔後援〕/小中高生の夏休みひろば開設
- 11・10 歩こう会～代官屋敷他
- 11・11 小中高生 土・日ひろば開設（通年）/絵手紙講習会2回
- 11・11 センターまつり
- 11・11 講演会 増田れい子氏「花、風にひらく一人間らしく生きるとは」

## 安全に安心して住める街

10周年までに築かれた礎をもとに、新たに運営協議会を発足させ、より地域に密着した活動を広げました。  
特にセンターまつりへの小中学生の参加呼びかけ、子ども110番など、地域の若い層の参加を促進しました。10年間の足跡をたどってみましょう。  
(10年間の記録については、10周年記念誌をご参照ください。)



「元気なまち、桜丘」を目指して健康体操が始まりました。

## こども110番 桜丘が発祥の地

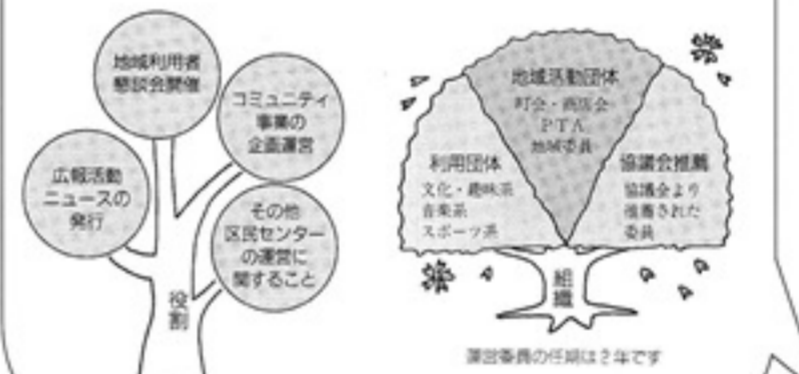
桜丘の地域で子ども達を守っていきましょう、何かあったら助けが求められる家のある町、地域の方々が点と点で手をつなぎ合い子どもの成長を助け見守ろうという主旨のもとに始まりました。  
現在は世田谷区により、「こどもを守ろう110番」へ移行し、桜丘の子どもたちを見守っています。  
年代を越えて地域での交流ができるよう大人同士、子ども達ととどん声をかけ合っていきましょう。

児童の応募作品によってできた初めのプレートです。



## 運営協議会の組織と役割

「桜丘コミュニティの会」から運営協議会として再発足しました。センター利用者および地域住民の自由かつ積極的な交流を深め、文化性豊かなコミュニティを育てていくことを目的としています。



毎年5月に開かれる地域・利用者懇談会はセンター運営の重要な柱の1つです。利用にあたってのご意見を直接お聞きし、皆様に喜ばれるセンターを目指しています。

- 昭和59・12 センター落成式・運営協議会発足
- 平成4・9 センターの管理運営が区に移管される
- 6・4 桜丘集会室オープン
- 6・11 10周年記念式典・10周年記念誌発行
- 7・6 桜丘コミュニティの会発足
- 7・9 歌の祭典（カラオケ）
- 7・11 コミュニティまつり
- 7・12 音楽のつどい
- 8・2 卓球教室〔児童館共催〕
- 8・3 利用者懇談会
- 8・3 講演会と映画の集い 熊谷博子氏  
「ふれあいまち～向島・オッテンセン物語」
- 桜丘コミュニティニュース発行3回
- 平成8・4 山田明弘事務局長赴任（～10・3）  
佐藤幸郎事務局長次長赴任（～9・3）
- 8・5 利用者懇談会（年3回）
- 8・6 歌の祭典
- 8・7 スポーツ交流会
- 8・10 コミュニティコンサート
- 8・11 桜丘コミュニティまつり
- 8・11 講演会 今富陽子氏「生活の知恵」
- 8・12 桜丘まちづくり音楽会〔共催〕
- 9・3 卓球大会〔共催〕
- コミュニティニュース発行3回
- 平成9・4 センター運営協議会再発足  
会長 川端富造氏  
副会長 片桐勝雄・岡崎よし子氏
- 9・4 寺田忠衛事務局長次長赴任（12・4局長～）
- 9・6 歌の祭典
- 9・7 地域・利用者懇談会/スポーツ交流会
- 9・10 講演会 大森正之氏「遺伝子組み換え食品とはどんなもの？」
- 9・10 映画と講演会 羽田澄子氏  
「安心して老いるために」
- 9・11 桜丘区民センターまつり
- 9・11 防災施設体験研修 本所防災館見学
- 9・12 まちづくり音楽会〔後援〕

- 平成14・5 地域・利用者懇談会
- 14・6 防災体験教室2回
- 14・7 研修見学連続講座2回「安心して飲める水と水源の森」／歌の祭典2回
- 14・8 笹原小・桜丘小花火大会〔後援〕
- 14・10 スポーツ交流会／歩こう会～野川・喜多見ふれあい広場／父と子の料理教室
- 14・11 センターまつり
- 14・12 まちづくり音楽会〔後援〕  
／社交ダンス交流会
- 15・1 卓球のつどい〔共催〕
- 15・3 音楽のつどいコンサート／桜丘コミュニティ講座～羽田澄子さんを囲んで
- ☎ 小中高生ひろば
- ☞ センターニュース発行3回
- 平成15・4 副会長 中西義治氏
- 15・5 歩こう会／地域・利用者懇談会
- 15・6 委員研修見学会
- 15・7 研修見学講座2回「ゴミのゆくえを探る」／歌の祭典2回
- 15・8 小中高生ひろば花火大会
- 15・10 健康スポーツ講座～お話とストレッチ
- 15・11 センターまつり／「囲碁まつり」講師 加藤正夫九段・梅沢由香里五段
- 15・12 社交ダンス交流会
- 16・1 卓球のつどい〔共催〕
- 16・2 コミュニティ講座 雙木佳子氏  
「私たちの食は安心ですか？」
- 16・3 音楽のつどいコンサート
- ☎ 小中高生ひろば
- ☞ センターニュース発行2回
- 平成16・4 伊吹廣由事務局次長赴任
- 16・5 地域・利用者懇談会／歩こう会～等々力溪谷他
- 16・7 研修見学講座「海から見る東京」／歌の祭典
- 16・10 健康スポーツ講座～楽しいストレッチ
- 16・11 センター20周年記念まつり



センターまつりのフリーマーケットはいつも大盛況！出店者も買い物客も地域の方々です。

### 小中生の作品展

平成10年センターまつり展示部門に地域の小・中学校が参加されるようになりました。また、体験教室も加わり、展示会場には力作がいっぱい揃い、生花も華やかに彩られ大勢の人たちで賑わいます。

〈参加者の声〉

☆子どもたちの作品展も地域の一体感がありました。

☆桜丘コミュニティの文化活動の状況が良くわかりました。



“音楽のつどいコンサート”には小学校の子どもたちも出演して地域の若者男女の心が通うひとときです。

### 小中高生ひろば

地域の連携と協力により、小中高生に「集える、憩える場所」を提供する企画としての“ひろば”を開きました。利用者の意志でいきいきと活動できる“ひろば”に成長することを願って、時間をかけ長い目で見守ってまいります。



センターでは、地域の方が一人でも気軽に来てもらえるようなイベントを企画し、参加をお待ちしています。



防災への備えが大切です。防災訓練にはどどんご参加ください。

- 平成11・12 まちづくり音楽会〔後援〕
- 12・2 卓球のつどい〔共催〕／江戸情緒探訪
- 12・2 副会長 西堀篤氏
- 12・2 講演会 佐藤百合子氏  
「消費者から見た介護保険制度」
- 12・3 音楽のつどいコンサート
- ☞ センターニュース発行3回
- 平成12・4 亀井高則事務局次長赴任（～14・3）
- 12・5 地域・利用者懇談会
- 12・6 押し花教室2回／防災教室2回／まちづくり音楽会〔後援〕
- 12・7 スポーツ交流会／歌の祭典2回
- 12・8 夏休みひろば花火・スイカ割大会
- 12・10 歩こう会～文学館他
- 12・11 センターまつり
- 12・11 トーク&ライブ 横井久美子氏  
ーいつでも今が人生のはじまりー
- 13・2 講演会 青空好児氏「明るい地域社会とは」
- 13・3 音楽のつどいコンサート／卓球のつどい〔共催〕
- ☎ 小中高生ひろば
- ☞ センターニュース発行3回
- 平成13・4 副会長 篠井仁・土谷英子氏
- 13・5 地域・利用者懇談会／歩こう会～野川他
- 13・6 フラワーアレンジ／防災体験教室
- 13・7 委員研修見学会／歌の祭典2回
- 13・8 夏休みひろば花火・スイカ割大会
- 13・9 男の料理教室
- 13・11 センターまつり
- 13・11 講談ライブ 室井琴梅・梅星氏
- 13・12 まちづくり音楽会〔後援〕／社交ダンス交流会
- 14・1 卓球のつどい〔共催〕
- 14・2 リフレッシュ体操講座6回
- 14・2 講座 山口ゆき氏「よい子が突然変わる時」
- 14・3 音楽のつどいコンサート
- ☎ 小中高生ひろば
- ☞ センターニュース発行3回
- 平成14・4 広瀬純子事務局次長赴任（～16・3）

# センターのいま ~あれこれウォッチング~

センターの1日をのぞいてみました。絵画やコーラス、囲碁、ダンスなど様々なサークルが活発に活動しています。個人利用枠では思い思いに自由な使い方をされています。

## 小中高生のお料理ひろば



運営協議会主催事業

中高生のリクエストで実現しました。他にもお琴、パドミントン、パソコンなどの希望がありました。次は何を企画しましょうか。

## 個人利用



1人でも自由に使えるように大広間や小中高生ひろばがあります。詳しくは事務局まで。

我等住む  
この町に  
建てた二十  
未だのしも  
高田久栄

## 絵画教室



会議室

多くの方と親しくなり、地域交流の輪ができました。友達と食事をしたり楽しみもふえました。

花びら舞う街で  
品川美智子  
花びら降る街を歩いている  
舗道に嵌め込まれた  
正方形の一枚一枚の石は  
淡い花びらを散らした  
千代紙のよう……  
風が吹き  
石畳の絵模様が変わる  
動く動画……

## コーラス



音楽室

施設が安く利用でき、楽しく練習できます。友人もふえて生活に張りができました。

## 老人給食



講習室

一人暮らしの生きがいになりました。楽しみに通っているのが健康維持、心のよりどころです。

## 子供バレー



体育室

集まりやすいので会員がふえました。

## 空手



会議室

子どもたちが安心して利用できます。

車椅子の  
我にはうれし  
バリアフリー  
若もなま通  
今村静子

## 運営協議会定例会



会議室

地域の方々に喜んでいただけるセンターをめざして定期的に話し合っています。

## 茶道



和室

同じ趣味の人との関係が深まります。いつも手入れが行き届いていてありがたいです。

## 児童館



センターが地域の核として住民が利用できる場となるよう、協力していきます。

## 事務局

受付



いつもお世話になります。親切な対応をありがとうございます。

## 図書館



## 講演会



集会室

保育もお願いしてきたので講演をゆっくり落ち着いて聞くことができました。

運営協議会主催事業

## 囲碁



会議室

世代を超えてお付き合いができ、地域外の人とも知り合いになり情報が得られます。

# 座談会

「明日のコミュニティ」  
「明日のコミュニティ」



講師：田村 正勝氏  
早稲田大学社会科学部教授  
コーディネーター：中島 裕明氏  
(財)未来工学研究所研究員

平成16年9月12日、桜丘区民センター20周年を機にこれからの区民センターの果たすべき役割、目指すべきあり方について、社会哲学の立場でコミュニティを研究されている早稲田大学の田村先生から一講演をいただき、運営協議会委員や学校・地域の方々による座談会を開催しました。それぞれのお立場からたくさんのご意見・ご要望を頂戴することができました。

## それぞれの立場で思うこと ～現状と課題～

井上 (運協委員・PTA) 運営協議会に入って2年目になります。最近、助け合いや地域通貨という事に興味があります。地域の活動に参加したいところですが、職場が遠く、なかなか思うようにいきません。

小野 (まちづくり協議会・元運協委員) 桜丘まちづくり協議会のコンサルタントとして15年ぐらい活動しています。

まちづくりにおいて、子どもたちにも地域のコミュニティの中でいろいろな役割があるのではないかと思います。中高生がコミュニティの中で無視されていると感じています。子どもには精神的なゆとり、そして空間的なゆとりが必要です。そこで「土日ひろば」を提案し、子どもたちもこの施設を使えるようにしました。

また、若いお父さん方が地域の中で活躍する機会も少ない。本当の意味でのネットワークができていないのではないかと感じています。コミュニティづくりの中で共有できる財産をどう皆さんとつないでいけたらいいか、年齢を超えてできるようなものは何か、その辺のところも聞きしたいなと思っています。

田村 (運協委員・商店会・町会) 町会としては、防災、防犯、交通安全の活動を役員18名と一般の住民の協力をいっただいてやっております。

文化事業として、まちづくり協議会と共催でコンサートなどを行い、また住民の皆さんをご招待する落語などの企画をしております。

箭内 (桜丘小学校長) 区民センター20周年、おめでとうございます。

さて来年度から世田谷区で採用される6年生の社会科の教科書に、「人々の願いとまちづくり」ということで桜丘区民センターの活動と写真が載っています。僕は地域の活動は続けていくことが力になると思っています。これからぜひ地域活性化のために続けていっていただきたいと思います。

また、田村先生がおっしゃったように、参加型の民主主義をつくっていくことが必要だと思います。ものが見える、言える、もう一つ、動ける社会をつくらなければならないと思います。

お願いして子どもたちが本当にお世話になっていながら、余り地域の行事に参加できないという状況ですが、引き続き参加を促していきたいと思っています。

土谷 この地域にお住まいの野城さんは大学で建築の教鞭をとっていらつしやいます。センターの外からの真つ白なところでのご意見をいただきたいと思っています。

野城 (地域一般) この土地には特別な思いがあります。昭和41年ごろ、ここは空き地で鉄条網が張ってありました。子どもというのは鉄条網が張ってあるとそこを破るのが大好きで、しょっちゅう怒られながら草野球をやっていました。また、子どもの遊び場としても選ばれた。また、子どもの遊び場としても選ばれた。また、子どもの遊び場としても選ばれた。また、子どもの遊び場としても選ばれた。

響を与えてくださいました。

このセンターへ遊びに来て、昔ここで草野球をやったときと今とどっちがいいのかなど、今は確実に子どもにとつて自由なスペースがなくなっていると思えます。テレビで子どもたちがマンションの一隅の植栽を秘密基地と言っているのを見て、気の毒と思いました。

私も教師をしています。今の学生は人間力がすごく落ちていまして、ちょっとしたことで心のバックケアが入って大学に来ないとか、うつ病に入っていく子がとても多いんですね。逆に、留学生はほれぼれするくらい人間力を持っていて、そういうのを見ると日本の教育もどうなっていくのだろうか、私もその片割れではあるんですけども、そう感じています。

そういう意味で、そろそろ20年になったら、学校や地域の方々、むしろ子どもに押しつけじゃない範囲でも継続的なプログラム、何かこのセンターを中心とした活動があってもいいかなという感じがします。

土谷 いろいろなお立場から非常に貴重なご意見をたくさんいただきました。これから先はコーディネーターの中島さんにバトンタッチしたいと思っています。

中島 これまでのご意見から、地域全般の課題を次のようにまとめることができると思います。

- ① 地域通貨 ② 子どもの居場所として

講演 早稲田大学教授 田村 正勝氏

## 「明日のコミュニティ」に向けて 『もの見方考え方』

地域社会と総合的生活——

田村でございます。きょうは、皆さんが、今、なされているコミュニティづくりなりその活動というものについて、コミュニティはなぜ必要なのか、今後ますます必要になってくるけれども、なぜか。こんなことを大きな歴史の中の流れの中に位置づけて考えてみたいと思います。

### 近代化がもたらした解放と破壊

今はどんな時代か。大変な大きな歴史の転換期だと思っています。何事にもプラスとマイナスとありますが、この近代文明にもプラスとマイナスとがございます。このプラスの面が素晴らしいからといって、われわれは余りにも急ぎ、短兵急に近代文明を追い求めてきたために、今度はマイナスの部分が多くなってきて、そのせつかくのプラスをぬぐい去って余りあるほどにマイナスの部分が多くなってきている。だから、このまま今までもどおりにこの文明を追い続けていくならば、多分あと五十年、どんなに長くても一世紀後から人類の破壊が始まるというのは、大体専門家の見方です。

近代文明の近代化とは、合理的、つまり科学的にもことを考え、工業化と民主化を進めてきました。そして、我々は近代文明から三つのプラス——精神的な抑圧からの解放、貧困からの解放、政治的社会的抑圧からの解放をもたらされました。しかし、これがすばらしいからといって余りにも急ぎすぎた。今度はそのマイナスの面が大きくなった。これが三つの破壊——自然の破壊、地域共同体の破壊、精神と文化の破壊です。

これら破壊現象を引き起こした経済主義の思想と中央集権国家制度を克服するための動きの一つとして、ローカル化とグローバル化の動きがあります。ただし、グローバル化には二つ、経済主義をもつと進めようというものと、それがもたらした弊害をチエックしようというグローバル化があります。我々が求めなくてはならないのはその後者の方であります。

グローバル化とローカル化は結局同じところに

いきます。住民が、その地域で地域独特な生き方、独自の特色ある生き方をすればいいんですね。その自立的な地域どうしが他の自立的な地域と地域ぐるみで交流をしましょう。それは何も国内の地域に限らず、海外の地域ともいたします。そうなるというのと同じことになるわけですね。つまり、これからの国際化というのは、自立的な地域をつくり、その自立的な地域が海外の地域といるような交流をすることにあります。

### 少子高齢化社会におけるコミュニティ

これからの少子高齢化社会においては市民生活とコミュニティの再生が必要になります。地域社会・ボランティア介助の役割が非常に大きくなります。受ける福祉から相互に作り出す福祉へとという事です。

長寿による多様な人生。六十で定年を迎える、平均余命からいくと九十まで、三十年間生きます。老人なんて言っておられませんが、人生の三分の一です。すばらしいことですね。この三十年間を自分の思うとおりに生きるためには、今は少しガタガタしていてもいいけれども、六十定年を迎えるまでに完全なボディに作り変える。今、頭が少しボケボケしていてもいいけれども、六十定年を迎えるまでにはシャキッとつくり変えていく。そうすれば、お迎えが来る直前まで現役をつづけられます。私はこれを「PPK」(ピンピンコロリ)や「PPP」(ピンピンポックリ)と呼んでいます。「ピンピンポックリ」を可能にするためには、やはりコミュニティがないとだめ。そこには受け皿があって、その中でみんなで話し合いながらやっていく。ここでやはりコミュニティが大事だということになるわけです。

### 参加のまちづくり、地域通貨の活用

経済主義・効率主義により雇用不安は限界に達し、地域経済は崩壊しつつあります。そこで、一つの動きとして、コミュニティ・ビジネスがあります。ビジネスに環境を絡ませて農と食のネットワークをつくり、参加のまちづくりで何となく地域を発展させましょう。あるいは地域通貨を活用することも結構です。地域通貨というのはその地域だけに通用しない通貨を回そうということですね。

この9月、世田谷区は教育ビジョンの骨子をつくりました。来年度から地域運営学校をつくっていくという事です。これからは学校と地域が力を合わせて進めていければと思っています。



矢口 (桜丘中学校長) 日ごろから中学生が地域の皆様に大変お世話になってます。中学校では総合的な学習(体験学習)で、地域の方、商店街の方に「無理を

てのコミュニティづくり ③世代を超えた交流 ④商店街の関わり方 ⑤地域と学校とのつながり  
また、区民センターの課題は、次の点があるようです。

- i. 利用者同士の交流の希薄化
- ii. 孤立化を防ぎ交流を促進する
- iii. 運営の担い手の減少を克服する
- iv. 子どもの居場所、青少年の受け皿として
- v. 参加のための具体策

まず、地域通貨について教えてください。

### 地域通貨

田村 地域通貨とは、例えば何かポラントピアした場合、例えば世田谷という地域通貨でもってお支払いします。その世田谷という地域通貨を持って契約している商店街に行きますと、それでもって大根が買えますよ、あるいはお酒も飲めますよ等々、というふうには、私自身も、ホリスティックライフというポラントピアで地域通貨を使っています。また、江戸川区では「えどがわつと」という地域通貨で、環境と絡めて流通させている例もあります。ほかにもいろいろなやり方があります。結局みんながごまかさなくて善意でやるということなんです。

太田 この地域通貨、商店街の活性化の一環にはなるとは思います。今すぐにはできないと思いますが、今後の課題



ちよく育てすぎている面があると思います。基本的な原理原則というのは簡単だと思えます。親兄弟を大事にしない、人の悪口言わない、その程度の単純なことですけれども、僕は母親からよく言われました。

齋藤(運協委員・利用団体) 長崎佐世保の小学校の事件で感じましたが、インターネットでも見えない顔に話をし、心を伝えることはできるんでしょうけれども、それ以前に面対面でお話をし、嫌がることを言ったときに相手の子がどういう反応を示すか、そのコミュニケーションがすごく少ないのではないかと思えます。

中島 田村先生はポラントピア活動を通じて不登校の子どもの扱われていらつしゃいます。

田村 今の子どもは自分の部屋を持つ

として考えていきたいと思えます。

### 子どもの居場所づくり・人づくり

中島 さて、地域参加ということでは教育、学校、そして子どもの関わりが非常に大きな分野としてあると思えます。

熊谷(運協委員・主任児童委員) 今、子どもの回りには問題が散在しています。お母さんたちがグループをつくれなかつたり、グループができていたために入れなかつたり、一人で悩んだれとも相談できず悶々と生活をしていたり。その背景には経済の問題、リストラによるものもあるでしょう。物質的には満たされていても虚しい思いで、自信を持って子どもに向かい合えなかつたり。

そんな親が子どもと向かうとき、ひずみが生まれ、どうしてできないの



て気に食わなければ自分の部屋へ入ってしまふことができます。そこへさらにインターネットというが入ってきたから、人とのふれあいというのが非常に少なくなつた。そればかりではなく自然とのふれあいというのほとんどできなくなつた。そこでキレイいろいろ問題が起こる。だから、私の場合は不登校の子どもに自然の治癒力を使い、ふれあいの場をつくつてなるべく外へ出そうとしています。

ただ、ふれあいのときには自然な状況をつくるのが大切です。初めに、自分自身との出会い、自分の時間、思索の時間。次に、自然との出会い。そして、「おまえ」との出会い。家族、親友などごく親しい者たちの交わり。最後が「われわれ」の出会い。休暇、グループ活動、集会や組合。こんな順序ですね。人とのふれあいの前に自然とのふれあいが先ということがポイントです。

中島 さて、けやきネットというコンピュータネットワークによる会議室の事前予約システムが導入されています。非常に利便性が高まり恩恵がある一方で、サークル間の交流が少なくなつてセンターが若干、貸し部屋の側面を強くしてきているのではないかという懸念もあります。

そうした中で、ふれあいの拠点、核として区民センターが機能するというのは今後に向けての重要な課題ではな

暴力に移ってしまうことがあります。そして、私はこの子を虐待しているのではないかと考えすぎてしまつたりして、社会現象が自分の中でどんどん助長されたりと、病んでいる方はたくさんいらっしゃると思えます。

そういうときにこそ寄り合つてたわいなくお話ができる「しゃべり場」みたいなところがあつたらそんな問題を少しでも解決することができるとは思いません。区民センター運営協議会としても気軽に参加してもらえような場をつくつていけるといいなと思つております。

運協では、いろいろなイベントをみんなの知恵を絞って展開させています。が、なかなか参加を促すことができないですね。ですから、参加拡大できような方法が何か一つでもお答えがいただけると思つてます。

中島 人づくりを積極的に進めるといふ視点ではいかがでしょうか。

箭内 基本は人と人とのつながりをどうつくつていくかだと思つてますよ。子どもというのはやはりお母さんから優しさを受け継いで人間になつていき、人と共感する心が育つていく。そういうことが基本にならなければ人と人の関係がつかない、難しい。親が子どもに対してきちんと言えない、子どもの機嫌を損なわないように気持

いかと思つています。区民センターを中心としてより多くの方が参加できるようにイベントの仕掛け、工夫点について考えてみたいと思つています。

### 参加のための具体策

小野 先ほど野城先生のお話にもありましたが、この地域には子どもたちの秘密基地になるような場所がない。危ないからできないではなくて、そんな秘密基地みたいなものをつくつてあげればどうか。

そこで、少なくとも日曜日ぐらいは集会室を、自由にだれが来てもいいと大人でも子どもでも、おじいちゃんもおばあちゃんでもいいから、そこは予約なしでたまり場になる場所にしてほしいなというのが一つ要望です。とかくあそこに行けばだれかいるということだけで救い。そして、そこは多分お母さん方にとつてもたまり場になると思つています。

例えば湯布院では「Yume」という地域通貨を使つています。湯布院というのはあれだけ大勢の観光客が来る。ところが、ここにカネがそれほど落ちない。なぜかという、ディスプレイショップが湯布院の外にきたため、湯布院に来る人はみんなそこで買って車まで入ってくるから、湯布院に全然金が落ちない。ただ人がいてこつた返ししているだけ。それはおかしいじゃないかということ、じゃあ、湯布院の地域通貨で回せということをやつたら、これでもう一気に解消しましたね。

### 来たるべき社会のビジョンとコミュニティの再生

一体、我々のこういう社会を変えていくにはどうしたらいいのか。まず、基本理念が必要。我々のこれからのねらいは「ゆとり」と「公正」と「運命」の社会です。

ゆとりというのは物と心の両方のゆとりが必要ですが、物のゆとりはいんですが、心のゆとりがないから、これをどういふふうに通じることがある。それから、公正でなくちゃいけない。公正というのは三つの原理がうまくミックスされているのが公正だということ。一つは、「五働いた者には五働いた者」ということ。これは「効

率の原理」です。けれども、これだけで社会をつくつたら、これは弱肉強食の社会になる。残念ながら人間も企業も生まれつき能力が違つて、この五働いた者に五働いた者に十やたら、完全に強い者が十に補うために、「分配の正義」というのが必要です。必要に応じて分かち与えるということです。つまり、身体障害者だからどんなに頑張つても三しか働けない。でも、五食べなければ死んじゃうのならば、その二は必要に応じて分かち与えるということが分配の正義ですね。

それと「機会の均等」という、この三つの原理がうまくミックスする社会が公正な社会だと思つています。それらをミックスするためには、まず、最初の交換の正義(自由)は市場の原理でいいのですが、これだけではだめ。分配の正義と機会の均等はだれがやるか、これは基本的には行政がやることです。ところが、行政は税金に負ふていますから限界があります。また行政は法律に基づいて一

### 発想の転換

では、我々がコミュニティを考えたり、生活していくときにどうしたらいいか。それは、発想の転換による経済主義の克服と地域社会福祉の展開です。つまり、経済主義のイデオロギーを克服するにはまず、もの見方や考え方を転換させること。エコノミック・アニマルから人間の本来の姿に戻ること。そのために生活を変えようということになります。数量主義思想から、その後にある意味もきちんと考える「定性」思考への転換を図ること。

それから、二項対立思考から即非律へ。ちよつと難しいことですが、我々は、光は光、陰は陰というふうな科学的にものを考えるために分別しますね。だけれども、実際のありようは、光と陰は一体になつていっています。光がなければ陰はない。陰がなければ光はない。つまり、ものごとが「対偶の理」をなしているということを考えましょう。これは二宮尊徳さんの言葉です。水車を見て水が流れている部分だけを見て、これを水車と思つておろかす。また、わざわざ潜つていって水が流れている部分だけを見てこれを水車というのもおろかす。両方は対偶の理をなしている。それを知らないのは、これを馬鹿者という。「愚者」というのは対偶の理を知らざる者」と彼は言つていますが、まさにそういうことです。

休憩のひととき 先生との談笑



酒入（地域一般）小学生の息子が2人  
笹原小学校でお世話になっております。  
私自身も中学校のときからこの地区に  
住んでおりましたが、最近になって子  
どもの小学校を通して学校や地域の活  
動に参加するようになりました。

場づくりという点では、そこに何か  
感動するものや非常に楽しかった思い  
出があるとかまた行ってみたいかなと思  
います。そういったものをこのコミュ  
ニティでこれからどんどんつくってい  
かなければいけないと思います。

若い方々に積極的に参加していただ  
くと、もっと活発な活動もできるの  
はないかなと思っています。

中島 住民参加のまちづくりを進めて  
きた世田谷区は、その先導役として早  
くから活発に活動されてきたと思いま  
す。しかし、福祉や防災や防犯の合意  
形成はしやすいけれども、そこへ住み  
たいというモチベーションをわかせる  
までには至らないというようなこと  
が新たな問題になってきてはいないか。  
そのことによってコミュニティの魅  
力が伝わらず、新しい人が入って来な  
い。そして、住民が高齢化していく中  
で世代交代ができない、というような  
問題がいま全国各地にみられます。

その点との関わりにおいて、やはり  
場づくりというのは非常に重要で、そ  
の中で魅力あるまち、もっと積極的に  
言えば地域が一つのテーマを持ってい  
て、そのテーマを発信していくような

思います。

人の価値観やニーズはさまざまです。  
行政、区としてすべての人の価値観、  
ニーズに対して応えていくことはとて  
も難しいです。公平性を保つ反面、画  
一的になる部分はどうしてもあります。  
それを飛び越えていけるのがまさに地  
域の力かなと思っています。行政は  
ある意味後方支援的な役割になるかも  
しれませんけれども、お手伝いできる  
ところはとことんお手伝いしながら、  
皆様方の主体的な活動を非常に期待し  
たいところと思っています。

加藤（桜丘図書館長）図書館としては、  
これから10年後のビジョンを持って、  
役に立つ図書館を目指してまいります。  
資料を提供するだけではなくて、お話  
し会や、学校への出張お話し会とい  
う形も行い、今後は地域のお話し会のポ  
ランティアの方を掘り起こし、一緒に  
手をつないで、読書は楽しいんだよと  
いう会を広げていこうと考えています。  
ふれあい・世代間交流・子ども

中島 さまざまな角度、それぞれのお  
立場から多様なご意見をいただきました。  
キーワードは、「ふれあい」「世代  
間コミュニケーション」「子どもを取  
り巻く問題」などでしょうか。  
それぞれの問題に対し、地域として、  
区民センターとして、関わりをさらに  
具体的に深めていく中で、今後ますます



そういう議論をしていき、活動の拠点  
になるというのが、新たに区民センター  
の課題として付け加えられると思いま  
す。

齋藤 ここに参加させていただいて皆  
さん文化意識が非常に高いと感じます。  
学校と地域、町会、PTA、それから  
その他の地域の方々が参加して、この  
協議会をつくって、何とか皆さんのた  
めにやろうとイベントを考えていらし  
るのは、これは本当にすばらしいと思  
います。

ただ、コミュニティというのはすべ  
ての個人を吸収しようとする社会学  
者が言ってますが、最後の一人が参加  
するにはどうしたらいいのかというの  
はやはりクエスチョンです。

太田 町会では、学校の行事やセンター  
の行事などを必ず回覧していますが、  
さらに皆さんが声をかけあうと参加も

すこの桜丘区民センターが活発になっ  
ていく気がしております。ぜひま  
すご発展していくことを心より祈  
念いたします。

土谷 本日はいろいろな立場の方々  
一堂に会していただき、こんなに一生  
懸命コミュニティのことについて意見  
を交換しあえたのは桜丘区民センター  
の二十年の中で初めてのことだと思  
います。また、小学校の状態とか、町会  
のあり方とか知らないことがたくさん  
あって、先生方や地域の方々のご苦  
勞を勉強させていただきました。  
皆さん、本当にありがとうございます。



ふえるのではないかと思います。

中島 高い参加意識を維持していく、  
世代を受け継いでいく、そういった地  
域づくりが求められ、さらにふれあい  
を重視しながら地域の活動やサークル  
等々をご支援していくというような  
り方が積極的に求められるのではない  
かと思います。

多様な価値観・ニーズに応えるた  
めに行政は

浅利（区・地域振興課生涯学習施設担  
当係長）日ごろからこの区民センター  
をご利用いただきまして本当にあり  
がとうございます。

地域振興において、地域のコミュニ  
ティがとても大事です。地域の力、人  
のネットワークを強くしていくとい  
うことです。ここ桜丘は皆さんが積極  
に参加され、区内でもトップクラスの  
コミュニティができていく地域だと思  
っております。

もう一方、子どもたちのセンターと  
の関わり方、地域のあり方、育て方と  
いう視点が非常に大事な部分だと感  
じております。子どもたちの場づくり  
として、プレーパークがあります。自己  
責任で遊ぶというルールが確立され  
ている場ではいろいろなことを体験学  
習できます。そういう環境が少しある  
だけでも世の中の善し悪しや危険度  
を感じるアンテナが育っていくの  
かなと

※発言内容につきましては要約させていただきます。

- 出席者（敬称略）  
（町会関係）太田十郎・佐藤四郎（まちづくり  
協議会）荒井芳夫・小野富雄・梶野誠司（地域  
一般）廣田陽一・野城智也・酒入行男（学校関  
係）矢口実・前内忠義・藤原寛（世田谷区）浅  
利修司・加藤秀子（元運協委員）土井英暉・武  
末昌子・野上操・野呂加寿子（運協委員）石橋  
ハル子・請地治門・斎藤和子・高成田恵・南貞  
代・宮沢利雄・中條奈緒子・大和田淳子・土谷  
英子・大下祥子・熊谷典子・井上みちよ・黒河  
内倫子（事務局）伊吹廣由

### 参加者の声

一人一人が地域のキーパーソンにな  
り得る自覚を持って、まずは参加す  
ること！

・センターを利用してない方のため  
に「地域枠」を設けて地域の方々が  
自由に使えるようにし、地域の方に  
よる講演会や討論なども行うとコミュ  
ニティ向上につながるのではないで  
しょうか。

・運営協議会の活動を理解してもら  
うために、センター主催で定期的に  
「地域についての講座」を開き、地  
域内での様々なできごとや派生して  
起こる問題についての専門家の話を  
聞くこととし、またそうした話合  
いを通してこれまで知り合えなかつ  
た人達と顔を合わせまた議論を深め  
ることでコミュニティの向上につな  
げるようにするのをもひとつの方法  
ではないか。

いう、そういう総合的な見方をしまし  
ようという  
ことが一つ。  
それから、もう一つ。人間は何でも  
できるよ  
うに生まれ  
ついできて  
います。ど  
んな人でも  
、これ全  
部持つて  
います。ど  
んな極悪  
非道者でも  
理性もあ  
ります。ど  
んな不器  
用な人間  
でも工作  
したら楽  
しいん  
です。ど  
ころが、  
残念な  
ながら、  
日本と  
アメリカ  
の教育は  
、その  
総合性を  
削り落  
として  
くるよ  
うな教育  
をしたん  
です。そ  
れはなぜ  
かという  
と、経済  
主義に  
毒されて  
います  
から、専  
門家をつ  
くれば、  
専門にな  
ればその  
知識を利  
用していい  
会社に入  
れる。いい  
会社に入  
ればそれ  
だけいい  
生活が  
できる  
と、こう  
ストレー  
トに結び  
つけた  
から、ど  
んどん  
専門家  
をつく  
ってちや  
つちや  
つた。専  
門家もい  
いけ  
れども、  
その前  
にまず  
総合的な  
存在であ  
るとい  
うことが  
大事です。

そのためには、ホリステックライフ——総合  
的な生活です。例えば飯に、今、我々の生活の場  
を家庭生活、労働生活、余暇生活、それから地域  
生活とすると、総合生活というのは全部大事です。  
全部やらなくちゃいけない。よく若い会社員に言  
うと、「先生、そんな無理言わない。仕事で手い  
っぱいで、残業もしなくちゃいかん、余暇もしく  
ちやいけな。で、自治会も運動会も出る、そん  
なことできないよ」と。  
言うまでもなく職場へ行ったら絶対仕事以外の  
ことは考えちゃだめです。徹底的に仕事のことし  
か考えちゃいけない。しかし、それをのべつまく  
なしじゃなくて、スパッと切り替えて、家庭へ帰  
たら職場のことは考えちゃいけない。つまり、自  
分が、今、何をすべきかということを考えて、  
それに徹してスパッと切り替えていくメリハリの  
ある生活が総合的な生活だろうと思います。

そこで、「進歩史観」から、「ここで、今史観」  
に。ラテン語ではHistoria、英語ではHistory  
ismということ。進歩史観というのは悪い  
意味の進歩史観、いや、それはね、余暇も大事だ、  
余暇もなくなっちゃいけないと思うけれども、俺、  
今、ロイン抱えているからね、そんな余暇するよ  
りちよつと残業する、五年くらいしたら楽になる  
から、そうしたら余暇する、そういうことを言  
っている人は棺桶に足突っ込むまで余暇なんて言  
えないですよ。（笑）今、やらなきゃいかんのです、  
今、そんな金がなくなつて、時間がなくなつて、  
それを自分でつくってやらなくちゃいけないん  
ですよ。それがCore time。これはアウグスティ  
ヌスという偉い坊さんがキリスト教の本質は何か、

ここで今だ、今、自分はここで何をすべきか  
というのをやるのがキリスト教の本質だと、こ  
う言った。  
同じことを仏教のお坊さん、道元も言ったん  
です。「有時而今（ウジノニコン）」「有」は全  
ての空間をあらわし、「時」というのは全ての時間、  
全ての空間も時間も、今、ここに今あるのだと、  
そういうふうな思想。未来というのは希望の今  
なのだ、今に希望があつて未来がある。過去とい  
うのは、思い出の今なのだ。全部今なのだ、そ  
ういうことを言った。  
道元がまた中国で修行している若いときに、腰  
が曲がって頭が地面につきそうなおじいさんが夏  
の炎天下にキノコを干していた。そこで、道元  
が言った。「おじいさん、何でこんな炎天下にキノ  
コ干すのですか。日が沈んでからやったら楽です  
よ。第一このお寺にはお小僧がいっぱいいるから、  
お小僧にやらせたらいいじゃないですか。」そ  
うしたら、それはすこい高僧だったのです。道元  
は喝を入れられた。「人は我にあらざる。また、い  
ずれのときを待たん。お前みたいになれかにや  
つてもうとかな、楽になつたらやるとか言つたらそ  
れは全然仏教がわかってないのだ。今やらなきゃ  
いかなきゃいかぬ。」そういうふうにお説教され  
た。そこで、「有時而今」、キリスト教も仏教も一  
番通ずるところは同じで、実はコミュニティづく  
りも同じだと思ひます。すべてが同じだと思ひ  
ます。こういうことですね。  
まだまだいろいろありますが、これで終わりに  
したいと思います。（拍手）

明日のCOMMUNITY  
座談会  
「明日へのコミュニティづくりに向けて」

# 座談会から

## 今後に向けて

### 新たなコミュニティ活動へ

#### 運営協議会で話し合われたこと

○「コミュニティ」というと「自分のまわりのこと」と考えていたが、それが「遠い世界で起こっている」と思っていたが「社会現象」と無関係ではないことを痛感した。我々の「コミュニティ」も広く人間生活全体、ひいては宇宙までつながっている。そうした認識に立つて考えてゆかなくてはならない。

○「子育て」であれ「老後」であれ誰も安心して住みよい街に暮らしたいと思っている。個々人の小さな願いを大きなうねりに変えてゆけるような力強いコミュニティを作ってゆかなくてはならない。

○桜丘区民センターは単なる「貸し室の集合体」ではなく、地域の中の様々な活動を結びつけてゆくネットワークを積極的に作り出し、「コミュニティ」の中核をなす役割を果たすべきだ。

勤め関係で活動時間にも制約を受けるためか地域に根ざした活動が少ない。その解決のために、若い男性も参加しやすい方法を考える必要がある。

○サークル活動の中に若年層や子どもを入れるようにするとその活動の中からは自然に「子どもに教えられる」部分がある。また逆に若年層や子ども達が年配者から「学ぶ」こともある。たとえば、新しい領域では「写真」とりわけ「デジカメ」(若年層との交流)や比較的古い領域では「踊り」(子どもとの交流)などがあげられよう。これらについては参加しやすいよう意識的に取り組むことも必要である。

○自治会での餅つきやお祭りなどには幼児から小学生そして大人から老人まで幅広い世代が、参加していた。若者にとつてお年寄りの意見も必要。そのような世代をこえた集いの場(しゃべり場)があったらよい。

○二年で委員が交代する現行制度は層を厚くする一助になっていると思う。

○センターで活動している母親の姿をみて子どもたちは何か大切なことを感じるであろう。その意味でも、任期が終わっても協力してゆきたい。



### 広げよう つなげよう 桜丘から人の輪を

子どもが草野球をして遊んでいた場所に「桜丘区民センター」ができて二十年。実際にはどんな変化が生じたのでしょうか。町会、PTAなどの代表者で運営協議会が発足し、こうした人達の地道な努力によって新しい住民参加型コミュニティ活動が行われてきました。

二十年の歴史は重く、その間利用団体の参加も得、講演会、音楽会、健康体操、センターニュースの発行などを通じて地域の文化活動・生涯学習の場としての役割を果たしてきました。

又、PTA校外班と共に「子ども一〇番」など地域への働きかけにも発展しました。

もし、桜丘区民センターが存在しなかったら……と考えると、その「場」があったからこそこのような地域のコミュニティが育ったのだと思います。

けやきネットが育ったのだと思えます。利用率も高くなりましたが、世代間の交流が希薄になる、運営の担い手が減少するなど、さまざまな問題も抱えています。

今回、講演・座談会を開催したのも、このような問題の解決に向けて活動を一歩進めようという試みからでした。

「コミュニティはなぜ必要か、大きな歴史の流れの中に位置づけてのお話は「自分達はすごいことをしている」という委員の方々の自信につながりました。又、運協以外の方達と広い意味でのコミュニティ活動についての話し合

いできたことも大きな収穫でした。新しいコミュニティ活動の一歩になることと思います。

センターの二階に来てみると赤ちゃん連れの若いお母さん達やロビーで学習・談笑する小中高生、サークル活動にやってきたお年寄りまで老若男女、実に幅広い世代に会うことができました。

まさしく「地域は家族」。しかし、若年層の参加が少ないのは淋しい。これからは会議や活動の時間帯を考えていく必要があるのではないのでしょうか。このように個々のニーズでセンターに人達が自然な形で集える・交流の場づくりこそが地域コミュニティの核として求められているものではないでしょうか。

少子高齢社会の中で、これからはこに行政の行き届かない部分でのボランティア活動が必要になると思われます。そのためには「良好なコミュニティ」は必要となることでしょう。

うるおいのある街桜丘の文化の核としての二十年の歴史を踏まえ、新たな出発をしましょう。講師が提起された「近代化によって破壊されたコミュニティ」を再生することが運営協議会に集まった人達のつとめではないでしょうか。

初めは戸惑い気味だった委員の方も二年目で任期の終わるころには目をきらきらと輝かせコミュニティについても熱っぽく語り始めています。そのことに明日への期待をつなげたいと思います。

文責 土谷 英子

### あとがきにかえて

二十周年記念誌作成にあたり、さて、何を伝えようかと始まった編集委員会。話し合いの末、「よし、未来に向けたメッセージだ」との思いに至った。そのために、これまでのセンターの活動をきちんと振り返り、現状を踏まえ、これからの進むべき方向性を皆で考え、発信していこう。

そこで、本誌の目玉となる座談会『明日への』コミュニティに向けて『を企画することになったのだが、これが大変……、いやいや、大成功！地域の方々の参加を得、座談会は、あちこちでパート2、パート3を引き起こしたようである(実はこれがねらい目)。

『明日への』は十周年誌のタイトルをそのまま踏襲した。恐らくエンドレスなテーマであろう。三十周年誌の頃はどんな明日が待っているか楽しみである。これからの担う方々にエールを贈りたい。

最後になりましたが、公費した表紙の絵、詩・短歌、その他アンケートにご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

表紙絵(区民センタースタッフ)

土井英暉

集合写真撮影 請地治門

桜丘区民センター二十周年記念誌

編集委員 土谷英子 野上 操

野呂加寿子 武末昌子  
大下祥子 熊谷典子  
井上みちよ 黒河内倫子

### 二十周年に寄せて —事務局から—

センターの二十周年記念を心からお祝い申し上げます。これまでの多くの先達のご尽力に感謝致します。この機に居合わせましたことを幸運に存じます。

常日頃、センターを軸に地域の人々の出会い触れ合いの中から新たな縁が拓かれて行くことを願っており、ひいてはコミュニティ発展の一助になろうかと考えています。

運協関係者・利用団体の皆さんが「広げよう、つなげよう、人の輪を」と、様々なコミュニティ活動に心血を注いでおられることに感謝し感謝しております。

そのような活動のお役に立てればと、事務局を始め多くの職員がその任に就いています。受付案内員、夜間受付員、清掃員、自転車整理員、設備係員の方々です。今後も、運協事業のサポートや施設を気持ちよく利用していただくために、全員で励みますのでよろしくお願致します。

寺田忠衛(事務局長)  
伊吹廣由(事務局次長)  
従事職員一同

